

# 四国・水こぼれ話

Water Information Saloon Shikoku

## 談話室 Vol.55

### 川と山について

高知県 仁淀川町長  
ふじさき 藤崎  
ふじと 富士登



仁淀川町は平成 17 年 8 月 1 日、池川町、吾川村、仁淀村が合併して誕生しました。北に四国山脈愛媛県久万高原町と県境を接し、石鎚山を源流とする仁淀川が東西に流れ、長者川、中津川、土居川の支流を合流し、ほぼ仁淀川の中流域に位置します。

地形は、標高差が大きく、急峻な地形で雨が多く、河川は急流で大渡ダムを始めいくつかのダムがあります。

町内を高知、松山間を結ぶ国道 33 号線が仁淀川に沿って約 19k、その 33 号と国道 439、494 号が交差する高知県の中央山間部の交通の拠点でもあります。

町の面積の約 90%が森林であり戦後は木材は勿論であります、木炭やミツマタなど森の産物が地域の経済を支えておりました。

しかし、日本の経済の急成長により燃料の木炭は、石油に変わり若者は都会へ流出し薪炭林は、杉、桧の植林となり、しかも近年は、木材価額の低迷により放置林が多く、このまま放置すると、大雨や台風による風倒木や、山地崩壊による災害の恐れがあり町として、間伐の推進や加工、パイ

オマス事業に努力しております。

杉、桧の植林は、間伐が遅れると表土は流され、石ころが多く、草や灌木は生えず保水力が無くなり、雨が降ると河川はすぐ増水し、日照りが続くとすぐ枯渇します。

私達の子供の頃は山の田園の水源には必ずウナギやツガニが居たけれど、今はまったく姿を見せない。勿論、小谷は空谷となり、魚の住める状況にはなくなっています。

久しぶりに川で泳いでみました。川底に黄色い大きな石があり、この石は子供の頃は、川底に時々見ることはありましたが到底立ち上がって背の合う深さではありませんでしたが、石の上に立ってみれば水面は腰の辺りまでしかなく驚きました。60 年の歳月を経て如何に川床が下がっているかを痛感致しました。洪水時に淵に変化はあるものの水位が下がっているとは思いませんでした。

山の森林の変化によって河川の水量が少なくなり川もまた大きく変化しており、山と川は不可分のものであり、これを少しでも元の姿に戻すように努力しなければならないと痛感した次第です。



長者川で行われる川のイベント「わんぱくカーニバル」



大渡ダム公園



大渡ダム